

# 令和元年度第1回真室川町総合教育会議 会議録

令和元年10月16日(水)午後3時より、真室川町役場302会議室において、令和元年度第1回真室川町総合教育会議を開催した。

出席者	町長	新田 隆治
	教育長	門脇 昭
	教育委員	遠田 且子
	教育委員	山田 敏一
	教育委員	鮭延 三枝子
	教育委員	中塚 聖子
事務局出席者	総務課長	佐藤 和弥
	教育課長	高橋 雅之
	指導主幹	浅沼 幸治
	総務管理・学校教育担当	
	課長補佐	山田 千穂
	子育て支援担当	
	課長補佐	佐藤 洋子
生涯学習・スポーツ担当		
課長補佐	須田 英樹	

## 会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ  
町長  
教育長
- 3 報 告  
町教育振興計画の進捗状況について
- 4 協議・調整事項（座長：町長）
  - (1) 教育行政の当面の課題について
    - ① 学校教育関係
      - ア 寄宿舎の利活用について
      - イ 高校再編について
    - ② 子育て支援関係
      - ア 子育て支援施策の推進について
      - イ 0歳～2歳児の保育対策について
    - ③ 生涯学習関係

ア コミュニティースクール制度について

イ クロカン振興について

(2) その他

5 その他

6 閉会

## 会議の経過

教育課長 (1 開会)

町長 (2 あいさつ)

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。中塚委員におかれましては、初めての会議になりますが、よろしくお祈りいたします。

台風でなかなか落ち着かない状況になっています。先週、姉妹都市の茨城県古河市「どまんなか祭り」が中止になりました。その翌日は東京真室川会の総会でしたが、延期になりました。真室川町においても、台風で不安に感じている方がおり、自主避難のための避難所を開設し、6ヶ所、21人が避難いたしました。

また、鮭延越前秀綱について知っている方が少ないこともあり、何か面白い話はないかと思っていましたが、先日、講談師の神田紅さんにお会いして、講談にすることについて快諾をいただきました。神田さん本人ではありませんが、脚本を書いていたところですので、楽しみにしていただきたいと思います。大人だけでなく子どもにも聞かせたいと考えていますし、大人にも子どもにもそうした本物の芸術文化に触れる機会をつくっていきたいと考えております。今日はよろしくお祈りいたします。

教育長 私からも一言挨拶させていただきます。皆様方には教育行政に対してご支援とご協力を賜り、本当にありがたく思っております。特に今年度は、町の第一次教育振興計画スタート年度ということで、7つの重点施策「虹のプラン」を中核としまして、半期過ぎたところです。今日はこれについて、ご意見をいただくとともに、次年度に向けた事業の推進に関わる話にもなるのではないかと思います。よろしくお祈りいたします。これまで以上に町長部局との連携によって、町の教育行政が一層発展するのではないかと考えております。よろしくお祈りいたします。

教育課長 (3 報告)

はじめに、教育長からありましたように、今年度教育振興計画がスタートしておりますので、その進捗状況について各担当から報告いたしま

す。

山田補佐 (ふるさと学習、公営塾、本物教室、おいしいふるさと給食について、資料に基づき説明)

佐藤補佐 (保育所改修、家庭保育支援給付金、保育士研修について、資料に基づき説明)

須田補佐 (スタディツアー、まちなか図書館構想について、資料に基づき説明)

教育課長 町第一次教育振興計画の進捗状況について説明いたしました。教育委員の皆様からご意見等ありましたら、次の協議の中で話題にさせていただければと思います。

(座長：町長へ)

町長 それでは、4. 協議・調整事項に入ります。(1) 教育行政の当面の課題について、事務局より説明をお願いします。

山田補佐 (①ア 寄宿舍の利活用について、資料に基づき説明)

町長 皆さんは、寄宿舍の様子をご覧になったことがあるでしょうか。ないようですので、一度、時間をとっていただいて、寄宿舍や周囲の様子なども見ていただいてからということですがどうかと思いますがいかがですか。

教育長 11月に学校訪問があります。真室川中にも行きますので、その際、見学したいと思います。

町長 では、見ていただいてから検討することです。よろしくお願いします。

山田補佐 (①イ 高校再編について、資料に基づき説明)

町長 県立高校再編整備計画について3月に一部改訂が行われているようですが、裏面の再編スケジュールに関する部分については変更ないようです。結果的に最上管内は12学級という言葉はありますけれども、2校という方向で考えているらしいという話もあります。いずれにしても今年度の入学者が定員の半数20人未満ですので、来年度も20人を切れば募集停止になります。

教育長 県の高校再編改革室から教育次長が町教育委員会に来庁し、「町の考えが聞きたい。」とおっしゃっていました。新しい計画は、今年度末にまとめたいとのことでした。

遠田委員 中学生がこういう条件だったら入るのではないかとしっかりまとめ、それを応援していけたらと思います。また、真校がなくなった時に就学に支障が出てくるような家庭がどれほどあるのかが心配されるところです。中学校統合の際も、教育委員会としては、できるだけ子どもたちや保護者の意向に沿って残して行こうという方向で進んでいました。結果としては、子どもたちも保護者も統合を望み、釜淵地区から真室川中学校に通学する生徒がいるような状況になっていました。保護者の意向

を汲んでいくことと、通学に支障がある時にいかに支えるかの両方を考えていかなければと思います。

教育長

高校選択は生徒の将来に関わることなので、親が何か言っても子どもは言うことを聞かないという現状があります。今の子どもたちはやりたいことがはっきりしていて、部活がやりたいとか、こういう勉強がやりたいとか、将来の考えを持っている子が多いようです。町の入学費用や通学費用などの支援制度も初めは効果があって、入学者が増えていましたが、ここのところ頭打ちになっています。子どもたちの高校選択のニーズにそぐわないところがあるかも知れません。その分、高校側が魅力づくり対策に一層力を入れなければならないと思います。この頃、私立高校に流れている傾向があります。私立は魅力があり、送迎バスもありますし、いろんな制度があって入学費用も割安になっており、子どもや保護者のニーズに応える努力を行っています。県立高校にも一層頑張ってもらいたいと、先日、県教育次長に要望したところです。

山田委員

昨年から見ると、北学区で200人近くの生徒が減少しているので、厳しい状況であるのは間違いないと思います。今の高校生が何を頑張っているのか、知りたいと思っています。中学生の高校選択の判断基準と今の真室川校が入学してみて実際どう思っているのか、真室川校を選択した魅力を確認してみたい気がします。将来的には全体的に生徒数が減り、再編計画では最上地区で2校となる計画になっていますので、新庄北高と新庄神室産業高になるのではないかと予想しています。子どもたちの選択肢が狭められるのではないかと気になっています。

町長

真室川校は県立高校ですので、町に権限がありません。想いや気持ちで話をしていますが、具体的な手法はとれない状況です。北海道おとねっふ美術工芸高等学校という学校があり、以前は普通科の高校でしたが、廃校の危機を迎え、村立の工芸科の高校として立ち上げて全国から生徒が来ています。ほとんどが村外の生徒でした。教員もある程度配置されていますが、足りない分7、8人を村が雇用しているようでした。特異な例としてそのような町立や村立の高校もあります。そこまでやるには、普通校であってもよほど特別なことがないと難しい問題だと思います。

鮭延委員

現在在学しているお子さんは、3年生まで在籍できるのですか。

町長

そうです。定員に満たないので、すぐに募集停止ではなく、2年後に募集停止となります。しかし、最後に入学した生徒は、最後は3学年1クラスのみになってしまいます。

教育長

地域説明会には、皆さん極力出席していただいて、出席者の数で熱量を見せなくてはと思っています。

町長 説明会には皆さんにも出席いただきたいと思います。では時間の都合もありますので、次の話題に進んでよろしいでしょうか。それでは子育て関係について、ア、イをまとめて事務局より説明をお願いします。

佐藤補佐 (②ア 子育て支援施策の推進について、イ 0歳～2歳児の保育対策について、資料に基づき説明)

町長 今の説明について、何かございますか。それでは、私から質問させてください。0歳から2歳児の受入れ増について、小規模保育事業所は可能だと言っているのですか。

佐藤補佐 現在、問い合わせしております。

遠田委員 保育士さんの状況は、定員増にしても大丈夫な状況ですか。

佐藤補佐 小規模保育事業所では、保育士と保育補助の方が半々でみることができるので、保育所より保育士数は少なくとも大丈夫な状況です。今、保育士配置の現状では、小規模保育事業所が保育士を募集すると申込みがあるという状況にありますので、事業所側と話をさせていただきたいと考えています。

町長 保育士を雇用しないとできない事業ですので、雇用の状況をみながらになると思われま。保育士についてもぎりぎりの状態ですので、もう少し増やしたいとは思っていますが、子どもが減って基準に対して保育士が多くなった場合の保障をどうするか等を考えるとなかなか難しい問題だと思います。

遠田委員 少し違う話かも知れませんが、子どもさんが良い状態で育児されていないようなそんな情報は真室川町ではないでしょうか。大丈夫でしょうか。

佐藤補佐 様々な状況がありますので、どこを基準にするか難しいのですが、町に要保護児童対策協議会というものがあまして、そちらに挙がってきている案件はありません。現在のところは大丈夫なのではないかと思っております。

町長 この一時預かりについては予定ですので、時間とか現実に合うかどうかの話にもなると思います。しっかりやるのであればファミリーサポートセンターを立ち上げるのがベストだとは思っています。

教育長 子育て支援センターの今の場所を使って、今のメンバーでやる方向で考えていますが、将来的には町長がおっしゃったように手厚くできる方が望ましいとは思っています。

鮭延委員 先ほど、子どもさんを預かって料金を一時間単位でという話がありましたが、民間で事業を行っているところが一時間あたり600円なのですか。

佐藤補佐 はい。町営ですので、それよりは安くできないかと思っているところ

です。他のところの料金も見ながら検討したいと思っています。

鮭延委員

あまり安くしてしまうと民業圧迫になりませんか。

佐藤補佐

あまり高いとせつかく事業を行っても利用に繋がらないので、子育て支援という点から検討していきたいと思います。

町長

具体的な案等が出た場合には、教育委員会等で皆さんのご意見を伺うことになると思います。少し年配の方とか、短時間だったら子どもを見てもいいという人がいると思いますし、そういう方をお願いすることができないものかとも思っています。それでは、生涯学習の話題に進みたいと思います。アについて事務局より説明をお願いします。

指導主幹

(③ア コミュニティースクール制度について、資料に基づき説明)

町長

やや難しい話になりましたが、簡単にいいますと地域学校支援コーディネーターがいらっしゃいますが、もともと学習支援員の方です。任命して、学校と地域とをコーディネートするという役割なのですが、現実的な仕事内容は8割程度が学習支援となっており、他に図書支援や地域とのコーディネートという状況です。学校では地域の炭焼きとか伝承野菜づくりなど、すでに関わっていますので、コーディネートすることは難しいことではないと思われま。ただ、学校運営協議会は作らなくてはなりません。この組織を地域の方と一緒に立ち上げることとなります。

遠田委員

協議会の構成は、どのような方々になりますか。今はそういう組織はないのですか。

教育長

中学校には学校評議員制度があります。小学校には評議員を置いていませんので、整備してつくってもらわないといけません。中学校はすぐ移行できると思います。

遠田委員

校長が提示した計画とか目標について、協議会の承認がないと学校運営を進められないようになるのですか。

教育長

学校運営協議会の制度上はそうです。承認の形で賛同していただき、地域の方に応援団になってもらい、学校経営を円滑にするための仕組みづくりと捉えることができ、どちらかという都市型の考えだとも思います。当町では、既に地域の方々から多く協力していただいています。

町長

この制度によって予算確保ができるので、活動の幅は広がってくると思います。

教育長

本来のコーディネーターの仕事に少しずつ移行していくこととなります。現在、特別支援教育に関する支援と図書支援が主になっていますので、本来の形に戻すチャンスではあると思います。ただ、その方々の負担にならないようにソフトランディングの形で考えています。

鮭延委員

コーディネーターの方々は大変ありがたい存在だと思いますが、コミ

ユニティスクールになって、積極的な意見があると学校経営に支障が出てくるという面はないのですか。

町長 学校の人事に関する項目もあったと承知しています。

教育長 項目は、制度設計の段階で検討できますので、人事に関することは外すことを考えています。基本的には学校を応援してくださる方々に委員になっていただきたいですし、そこが大事だと思います。

町長 学校で毎年経営概要を作成していますが、前年度にそれを承認してもらおうことになりませんか。それは大変だと思いますが。

教育長 新しい校長が教育課程を決めるわけですから、4月に第1回目の会議で承認をもらうのが正しいと思ってきました。ところが、この地区で先行しているところでは3月にしているそうです。つまり、前校長の時に了承をいただいて、それでスタートということでした。これは考え方の問題だと思いますが、議論しなくてはいけないと思っています。

町長 次に進んでよろしいでしょうか。それでは、イについて事務局より説明をお願いします。

須田補佐 (③イ クロカン振興について説明)

町長 青木推奨基金に1,000万円ありますが、利子は極めて少額ですので、取り崩して有効に使ってはどうかという意見があります。「青木富美子」という名前がついている基金ですので、以前、町基金を整理した際も対象にはなりません。1,000万円の資金をクロスカントリースキーの振興に向ければ、多くの方の納得が得られるのではという考えもある一方で、クロカン人口がかなり減少している状況でもあります。スキーだけ特別扱いすると厳しい意見もあるかと思います。そういったことも踏まえながら、考えていきたいともいます。今日は、結論は出ないと思いますので、皆さんの頭の中に入れておいていただいて、いつかご提案いただければと思っています。

遠田委員 スキー部の生徒は他の部活動より費用がかかると聞きました。そのためにスキーを諦めることがないように、支援する組織があればと思います。その点も含めて、基金の在り方を考えられないかと思います。クロスカントリースキーをする子どもが少なくなった理由として、他のスポーツに関心が向いていることがあると思いますが、真室川町に住んで、スキー場が整備されているところに育っている訳ですから、選手にならなくても、もう少しスキーを体験する、底辺が広がるようなことができないかと思います。スポーツ少年団の練習の中にクロスカントリースキーを組み入れるような、総合型スポーツクラブのように様々なスポーツをする中で「スキーが楽しい」と思える子どもを育てられないかと考えたところです。

- 教育長           やはり楽しくないと子どもたちは取り組まないと思います。競技スキーを過度にやり過ぎてきたのではないかと反省もあります。スキーは本来、楽しいものだということを学校教育でもっと考えていかななくてはと思います。スポーツ少年団も同じだと思います。
- 山田委員           今年、スキースポ少に入った子が 14 人おり、うれしく思いました。スポーツをする楽しさを少しでも伝えられればと思います。
- 遠田委員           学校のスキー授業でもスキー大会に向けた練習だけでなく、楽しさも味わわせてほしいと思います。
- 町長               スキーの振興策があつて、それに充てるのが本来だと思いますが、よほどの熱意がないと難しいと思います。
- 鮭延委員           その基金の使い道について、青木さん自身の意向はないのですか。
- 町長               特に意向は必要ないと考えています。名称は本人の承諾を得たはずで  
す。
- 総務課長           基金を創設する際、ご本人から承諾いただいております。
- 町長               基金についても、いいアイデアがありましたら、皆さんからご提案  
いただきたいと思います。クロカンコースの有効利用も教育委員会で検討  
していただきたいと思います。クロカンだけでなく歩くスキーとか、冬  
だけでなくでもいいと思います。
- 教育課長           皆さんから他にございませんか。なければ、以上で会議を終了したい  
と思います。以上をもちまして閉会とさせていただきます。
- 一同               ありがとうございます。